

令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 県知事賞 優秀賞

「 土砂災害について 」

鹿児島市立谷山北中学校 1年 上原口 流星

「ほら、見てごらん。これ鹿児島市の災害なんだよ。」

テレビを見ていた母が、言ってきました。それは、鹿児島8・6豪雨災害というもので、平成5年8月6日、時間雨量100ミリに近い大雨が鹿児島市北部を中心に集中して降ったことで、土砂災害が多発し、甲突川や稲荷川がはんらんして市内の広い範囲が浸水し、死者行方不明者も49人でた大きな災害でした。その時の様子をニュースや動画で見ると、動けなくなっている車や色々な物が流されていたり、歩いている人の胸まで雨水があるのを見て、本当に信じられない思いと怖い気持ちになりました。

災害の怖さや大変さはそれだけでなく、その災害が終わっても、断水、停電、孤立、食料、日用品の不足など市民生活に大きな影響を及ぼします。この8・6豪雨水害でも、約83000戸が断水し、全域が復旧するまでに約1週間を要しました。さらに、2日間にわたり停電が発生したそうです。

以前、鹿児島市防災ガイドマップという物が配られていて、その資料を見てみると改めて学ぶことがたくさんありました。かたむきが30度以上ある土地が多い日本は、台風や大雨等で、がけ崩れなどによる土砂災害が発生しやすい環境にあり、いざ発生すると一瞬にして多くの人命を奪ってしまいます。特に、鹿児島市の多くは、水を含むと崩れやすいシラス（火山噴出物）でおおわれており、土砂災害が起きやすい地域だそうです。

土砂災害は、大きく「がけ崩れ」「土石流」「地すべり」の3つに分類することができます。「がけ崩れ」とは、かたむきが30度以上で高さが5m以上の土地において、大雨や長雨などにより雨水が地面にしみこみ、緩んだがけが突然崩れ落ちるものです。「土石流」とは、山や谷の土、石、木などが、大雨や長雨などによって一気に下流へと押し流されるものをいいます。「地すべり」とは、大雨や長雨などにより雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたり、ゆっくりと斜面下方に動き出すものをいいます。この3つが土砂災害の主な原因です。

土砂災害（特別）けいかい区域とは、土砂災害のおそれがある区域です。鹿児島県により、新たに土砂災害特別けいかい区域（約3100箇所）と土砂災害けいかい区域（約3300箇所）が指定されました。自分が住んでいる所は、それらにがい当していなかったので少し安心しました。

台風・水害・地震・火事・津波・土砂災害はいつ起こるか分かりません。だからこそ怖くて恐ろしいものです。防災訓練では、避難をしたり、ビデオを見たりして学ぶことができますが、今、自分自身で出来ることを考えてみました。

まずは、非常持出品の準備です。懐中電灯やラジオ、予備の電池、飲料水、非常食、救急薬品、貴重品、衣類など、いざという時にすぐ避難できるように一つにまとめておくことが大事です。断水、停電になった時を想定して備蓄品として、飲料水や食料品、カセットコンロなどの準備も

令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 県知事賞 優秀賞

必要です。

また、身近にひそむ災害をイメージして避難場所や避難経路を確認することも大切です。僕の家は近くだと、中山小学校が指定緊急避難場所になっており、大規模災害に備えた備蓄物資を保管していることも知ることができました。家族でも話し合い避難時には、集合場所を中山小学校にすることにしました。

防災情報は、正確な情報を収集することが必要です。携帯で住んでいる地域を入れ、防災情報とけんさくすると、発表中の防災情報や台風情報、雨雲の動き、天気予報、アメダス、地震情報など細かく知ることができました。ニュースやラジオ、携帯の情報を確認し避難情報が発令されたら、危険を感じる前に即避難しないとけません。

災害は忘れたころにやってきます。いざという時の心の備えと、物の備えを日頃から意識して命を大切にしていきたいです。そして、あたり前に今、過ごしている毎日に感謝しながら、自然の恵みも感謝しつつ、一日一日大切に過ごしていきたいと思います。